京都帝國大學經濟學會

經濟論叢

第五十一卷 第五號

昭和十五年十一月

紀元二千六百年記念論文集

新體制の原理と政治經濟

石川興二

緒言

近衞新體制の聲明のありし以來、新體制なる語が流行語となつて亂用されるに至れることは甚だ憂ふべきことである。かくて例へば經濟の新體制と云はれるものも枚擧に暇なき程發表された。然し多くはその立脚せる原理を明確にせず新體制たる根據を缺如して居る。この有樣を見て新體制の原理を論明することの必要を痛感するに至つた。而もこの新體制の原理たるべきものは、日本が現代の變革期に處すべき唯一の正しき立場としてこれまで究明し來れるものなのである。

一　新體制の意義と問題

新體制とは、新な主體を原理として組織される制度である。先づ人間生活なるものは何等かの主體により組織せられたる制度の下に於て行はれる。例へば中世に於ては、武士階級を主體として組織されたる制度の下に於て人間生活が營まれた。これ封建的體制である。然るに一定の體制の下に於て人間生活が存續發展し得ざるに至れば新な主體を原理とすることによつて新な制度を組織しこの下にその存續發展を計らねばならない。これが新體制である。例へば封建的體制に於て人間生活が存續發展し得ざるに至つて、新な主體としての個人によつて組織されたる個人主義體制に於て、人間の存續發展が計られた。これが當時に於ける新體制である。今やこの個人主

義體制に於て人間生活が存續發展し得ざるに至りこゝに今日の新體制問題が起るに至つたのである。然らば新體制の問題に於ては、先づ今日の制度の主體たるものとは異なるところの新な主體が明にされなければならない。このことによつてはじめてこの新な主體によつて組織さるべき新な制度即ち新體制が明にされ得るのであり、更にこの新體制を實現する方策が明にされるのである。

然らば新な主體を明にすると云ふことは如何にして爲され得るであらうか。このことを歴史的に反省して見よう。スミスは封建的體制の下に於て人間生活が行き詰れる時、これを打破せんが爲めに新な主體として個人なるものをその行き詰まれる現實在の中に發見し、更にこれを主體として新に組織さるべき制度即ち個人主義的新體制の構造を明にした。『富國民論』第一第二兩篇に於てはこの制度の構造とその下に於て經濟生活が如何に良く行はれるかが理論的に明にされた。彼は進んでこの制度を實現せんとする立場より第三篇に於ては歴史的發展を考察し、第四篇に於ては當時の事實としての重商主義的干渉政策を批判し、第五篇に於てはこれが實現の方策を明にしたのである。この個人を主體とする自由主義體制をスミスは「自然的自由の體制」と呼んだのであつて、これが今や實現せらるべきところの新體制である。而もこの新體制の實現は容易ならざるものと考へられた。即ち彼は「實に商業の自由が英國に於て完全に打立てられることを期待することの無理なることはユートピアが英國に於て建設さるゝことを期待するが如し」と云ふて居る。

かくてこの學に於て明にされたる新體制は、當時の實在に潜在して居たところのものである。この現實在の中に潜在的 an sich に用意されて居るところのものを、學は對自的 für sich に鮮明したのである。この學に於て對自的に明にされたるところの智識を以て現實在に於て潜在的にあるところのものに働きかける時、潜在的 an sich

なるものが對自的 für sich なるものゝ力によつて、具體的 an und für sich に新體制として實現するのである。

かくて行き詰まれる「現實在」に於ては新體制たるべきものが潜在的に用意されて居るのである。これを對自的に明にするところのものが「實踐學」である。この實踐學に於て明にされたるところを以て現實在に働きかけて新體制を實現するところのものが即ち「實踐」である。かくて現實在と實踐學と實踐とは an sich, für sich, an und für sich の關係にあるのである。

かくて現代の新體制問題の研究に當つては、先づ現代の行き詰れる實在の中にこの行き詰りを打破すべき新な主體を發見し、更にこの新な主體によつて組織さるべき新體制の構造を明にし、進んでこの新體制を實現すべき方策を明にしなければならないのである。

二　近衛新體制聲明の意義

世界史の變革期に當つては、これに處すべき明確な自覺を有する國民のみが隆興し然らざる國民は沒落する。このことは嘗て中世より近世への變革期に於て見られたところであるが、今や現代の變革期に於ても顯著に示されつゝある。即ちこの變革期に處すべき自らの指導原理を有して居るソ聯並に獨伊は支配的地位に高まりつゝあるに反しこれを有せざりし佛蘭西は既に沒落し英國も沒落しつゝある。然るに日本は久しく現代の變革期なることをすら十分に自覺せず從てこれに處すべき確乎たる指導原理を有しなかつた。かくてその國策は對内的にも對外的にも確立せず徒らに外國への追從を事とする有樣であつた。然るに今やこの重大時期に當り近衛首相によつて新體制の聲明がなされるに至つたのである。

本論に於て述べるが如く我國に於ける革新の根本特色は、大化の改新に於ても明治維新に於ても　天皇を中心

として從つて詔によつて爲された點にある。今やこの新體制の聲明は「聖旨を奉體し」て首相によつてなされたのである。こゝにこの革新の聲明の日本的性格が存する。

ことにこの聲明の劃期的な意義は、これまでの外國模倣の總ての立場を明確に否定せしことである。これまでの聲明に於ては例へば「將士に告ぐ」の板垣聲明に於ても近衞公の「大命を拜して」の放送に於ても個人主義、資本主義、社會主義等は否定されたが、全體主義なるものには一言觸れられなかつた[1]。然るにこの聲明に於てはじめて全體主義なるものが批判され且つ否定されたのである。即ち曰く「一國一黨は一つの「部分」をもつてたゞちに「全體」となし、國家と黨を同一視し「黨」に反對するものをもつて國家に對する反逆と斷じ「黨」の權力的地位を恒久化し、黨首をもつて恒久的なる權力の把持者となすことを意味する……かゝる形態が他國において如何に優秀なる實績を示したりとはいへその形態をたゞちに日本において認むることは一君萬民のわが國體の本義を紊るものといふべきである、わが國においては萬民齊しく翼賛の責に任ずるのであつて一人もしくは一黨が權力によつて翼賛を獨占することは絶對に許されぬ」即ちこゝに獨逸に於て「優秀なる實績」を擧げその故を以てことに滿洲事變以後わが國に直譯輸入せられ而もそれが日本主義であるかの如く裝はれて我國體を攪亂せしめたところの全體主義又は權力主義の立場が個人主義と共に我國體に悖るものとして明確に否定されたのである。かくて日本が現代の變革期に處する立場として、これまでの外國模倣的立場であつたところの資本主義、社會主義、全體主義の一切が否定されることゝなつたのである。かくて今や「萬民翼賛の國民組織」なるものが新體制として聲明されたのである。

この聲明に於ては、新體制の要請、新體制の構造、新體制の實現方法について述べられたのであるが、その最

も重要な意義は、現代日本の實現すべき新體制の正しき立場を明にしたことである。故にこの新體制を實現せんとすれば、先づこの正しき立場を原理的に發展せしめなければならない。それは一方この立場を基礎付くべき原理を歴史的哲學的に明にすることであり、他方この立場の上に立てらるべき實踐的諸方策を原理的に究明することである。一つは基礎原理の問題であり他は實踐原理の問題である。先づ基礎原理について述べることゝする。

三　新體制の基礎原理

近衛聲明に於て新體制とされてゐるところのものは「萬民翼贊の國民組織」である。既に述べたが如く新體制なるものは新な主體を原理として組織したる制度である。故に近衛新體制についても先づこれを組織してゐるところの主體が明にされなければならない。然らばこれを組織して居るところの原理は何であるか。

この新體制の主體たるものは、日本の歴史を一貫してその本體的構造をなして居るところの「天皇中心の國民共同體」より外あり得ないのである。それは既に大化の改新に於て確立しその後一貫して變はることなく、中世の封建的全體主義體制もこれを基礎としてその上に成立ち、これと矛盾するに至つて否定せられ、また近世の資本主義體制も同樣にこれを基礎としてその上に成立ち今やこれと矛盾するものとして否定されざるを得ざるに至つたところのものである。即ちこれまでの日本歴史は常に「天皇中心の國民共同體」を基礎構造としたのであるが、而もこの基礎の上にその各時代の必要とするところの時代的な主體即ち中世の全體主義的主體、近世の個人主義的主體によつて國民生活が組織されたのである。かくて成立せる中世の全體主義體制に於てまた近世の個人主義的體制に於てそれぞれの時代に必要な國民的發展を遂げ來つたのである。この各時代の發展によつてこれま

で準備されたところの文化、人々の教養自覺、生産力の發展によつて今や日本の基本的本質的な主體であるところの「天皇中心の國民共同體」自體によつて國民生活の全領域を組織し得るに至つたのである。かくて實現すべき新體制が「萬民翼贊の國民組織」なのである。故にこの「萬民翼贊の國民組織」の構造を明にせんとすれば、先づこの基本的主體としての「天皇中心の國民共同體」なるものの構造が明にされなければならない。

この我國體たる「天皇中心の國民共同體」に於ては、天下億兆一人もその所を得ざるものなからしめんとし給ふ　天皇の御天職の實現を、國民がその各自の能力に應じて分擔し奉りこれに最善を致すことを以てその職分となすのである。故に國民各自が大御心を體してこの職分を實踐することによつて、君民一體となり、こゝに萬民翼贊の實が擧がるのである。かくて國民の總てがその職分に誠を致すことによつて　天皇の御天職が實現しその結果天下億兆一人もその處を得ざるものなからしめられるに至るのである。故に各自がその職分を實踐するといふことは個として全を生かす所以であり、かくてまた全が個を生かすこととなるのであつて、こゝに共同體の本質が顯現するのである。

この「天皇中心の國民共同體」を主體として國民生活の各領域を組織するとき、この各領域に於ける國民の活動は、これまでの個人主義社會に於ける個人の職業とは全く異り、各自が「天皇中心の國民共同體」の成員として　天皇の御天職の實現を分擔し奉るところの職分としてこれをなすところのものである。從つてそれは各自にとつて最も貴いものであり、各自はこれに於て生きこれに於て死すること、恰も軍人がその職分に於けると同樣である。この眞劍な職分觀の確立と云ふことが新體制確立の根柢となるのである。

この各自の職分が十分に正しく實現されんが爲めには、各自がこの眞劍な職分觀に立脚するのみならず、教育

とか經濟とか云ふが如き各の領域全體の職分が最もよく實現され得る樣にその內部に於て各々の職分が最も適切に組織されて居なければならない。これが爲めには各職分を擔當するものが自己の職分の實踐により他の總ての人々の職分の實踐を最善に生かし得る樣にまた他の總ての人々の職分の實踐が自己の職分の實踐を最善に生かし得る樣に卽ちこゝに於ても個か全を生かし全が個を生かすところの共同體的本質を以て各種の職分が組織されて居ることを要する。この爲めにはこの職分の共同體的構成は一領域內部に於けるその仕事の種類の小さき單位より順次それを包括するより大なる單位に及びかくてその領域全體は共同體の重層的な構成を以て組織されることを要する。かくしてこの職分共同體に於て各自は自己の職分にその個性を存分に發揮し得、その領域全體の働きが最大に發揮されるのである。

この各の領域の職分共同體なるものは「天皇中心の國民共同體」に於て、天下億兆一人もその處を得ざるものなからしむる爲めに必要なる各種の職分の遂行を擔當して居るものとして、その各々は、他の諸領域の職分を最善に發揮せしめ得る樣に、互に共同體的に結ばれて居なければならない。例へば、教育共同體がよくその職分を果し總ての人々の能力をよく啓發するが故に、この人々が諸々の職分共同體に入りその優れたる人的要素としてその共同體全體の力を十分に發揮せしめ得るのである。同樣に經濟共同體がよくその職分を果すが故に、諸職分共同體の必要とする物的な諸設備が完備して、それ等職分共同體の力を十分に發揮せしめ得るのである。

かくして「天皇中心の國民共同體」を主體とすることによつて國民生活の各領域は各々の力を最大に發揮し得る。かくて「國家國民の總力を最高度に發揮」することゝなるのである。故にそれは、單に「高度國防國家」であるのみならずまた「高度教育國家」でありまた「高度經濟國家」等々である。要するにそこに於てある一切の

職分共同體が最高の力を發揮し得てのみ各の職分共同體が最高の力を發揮し得るのである。一つの職分共同體が最高の力を發揮せんが爲めに他の職分共同體を壓迫すると云ふが如きことがあれば、やがてその結果は、壓迫される職分共同體の力を弱化しこのことが共他の職分共同體の働を低下せしめかくて國民的總力が低下し弱下することゝなるのである。國民共同體に於ける諸の職分共同體はかくの如く密接に共同體的に結ばれて居るのである。故に總ての職分共同體を重んじその各々の能力を十分に發揮せしむる時にのみ眞に持久的な最大な國民總力を發揮し得るのである。かくの如き日本國民にしてはじめて、今後久しきに恒るこの世界變革期に處し、眞によく指導國民として世界總力を活用し以てその國民理想を世界に實現することが出來るのである。

以上は國民共同體の一面に於ける職分共同體の組織について述べたのであるが、この職分共同體に於て生産されたる諸の價値の一部分は各の職分共同體に於ける職分の遂行の爲めにも用ひられる。この意味に於てそれは生産的消費と云はれ得る。然し諸の職分共同體に於て生産されたる諸種の價値は、國民生活の爲めに用ひられることによりはじめて天下億兆一人も其處を得ざるものなからしめ得るに至るのである。この諸の價値の生活的享受が、諸價値生産の究極目的である。この生活的享受は諸の地域共同體に於て爲される。この意味に於て地域共同體は職分共同體に對し生活共同體と云ひ得る。即ち「天皇中心の國民共同體」は諸價値の生産の面より見れば職分共同體でありその享受の面より見れば地域共同體である。この兩面の適切なる構成が相待つてはじめて天下億兆一人も其處を得ざるものなからしむるところの國民共同體の本義が完全に實現され得るのである。

この地域共同體の構成も共同體の重層的構造によつて組織されなければならない。即ちその最小なるものは家族共同體であつて、この家が相寄つて隣組の共同體をなし更にこれが相寄つて部落又は町内共同體を成す。同樣

にして順次に市町村共同體、郡縣の共同體を構成し最後に國民共同體に至るのである。國民の諸種の生活はその各々に適切なる共同體を單位とすることによつて行はれる。例へば日常の衣食住の享受は家族共同體を單位として行はれこゝに幼き生命がその一人一人の個性を重ぜられて育て上げられ、また壯年者の生活の根據が置かれ老年の息ひの場所が與へられる。それは家族共同體を單位として最も適切に爲さるゝところのものである。また小學校教育、醫療等は村等の共同體を單位として行はれることゝなるであらう。この地域共同體について特に大切なことは、これ等のものがその共同體的本質を出來るだけ十分に發揮すると云ふことである。卽ちこれ等の地域共同體の或ものは、中世の封建社會に於て全體主義的支配の爲めに用ひられたものである。今日それが再び活用されんとする所以は中世の全體主義の立場に於てではなく「天皇中心の國民共同體」に於ける共同體的な構成要素としてである。故に嘗て村落共同體に於て各家族共同體の戸主が相集つて村の共同體會議を構成し村全體の爲めに地割其他を合議決定せしが如き共同體的な精神と組織とが各の地域共同體に於て確立されなければならないのである。

以上「天皇中心の國民共同體」の基礎構造について述べたのである。この國民共同體を主體とすることによつて國民生活の諸領域を組織するならば、これが卽ち今日求められつゝあるところの新體制である。先づこれを政治について述べよう。

四　政治の新體制

古代に於ては祭政一致であつたが、中世に至つてはこれが分化し政權は武士階級によつて擔當されるに至つた。卽ち中世の政治は權力階級を主體とし、據らしむべし知らしむ可らずの體制であつた。これは將軍とこれに

生死を誓ふところの武士團よりなる「一國一黨」を主體とする全體主義的政治體制である。近世の政治は個人を主體として個人の利己心に基く投票の結果になる多數政黨を以て國家意志を構成したところの個人主義的體制であつた。この體制が「一國一黨」の全體主義的體制と共に我國體と相容れざるものであることは近衛聲明に於て明に云はれて居るが如くである。かくて今や要請される政治の新體制なるものは、「天皇中心の國民共同體」を主體とするところのものである。

この「天皇中心の國民共同體」の政治に於ては、先づ第一に「萬機公論に決すべし」と云ふことが實現しなければならない。帝國議會なるものは本來この意味に於て設けられたのであるが而もそれがこれまで個人主義社會の上に基礎付けられて居たが故に個人主義社會に於ける有力階級たる資本家階級の意見が主として代表され、萬機公論に決することは出來なかつた。全體主義者はこの歪められたる議會を以て議會の本質となし、議會自身を否定せんとすらする。然し今これが「天皇中心の國民共同體」に基礎付づけられるならばこゝにはじめてその眞意義を發揮し得るに至るのである。然らばこのことは如何にしてなされ得るであらうか。それはこの國民共同體を構成するところの諸の共同體の人格代表を以て國民議會を組織すると云ふことによつてである。國民共同體を構成するところの共同體は、前述せし如く職分共同體と地域共同體とであるが各の職分共同體の內部には更にこれを構成する諸種の共同體が重層的に存在する。これ等諸の共同體がその成員をなす熟知せる者の中よりその共同體を人格的に代表すべきところの優れた人物を選出することによつて各自の共同體の共同體議會を組織する。更にその共同體を包攝するより大なる共同體の共同體議會を組織する。かくの如くにして經濟、教育其他の職分共同體の共同體議會が構成される。更に各の職分共同體全體を代表すべき者が選ばれて、國民共同體議會を組織す

るのである。かくの如く小なる共同體より大なる共同體へと順次に選ばれたるこれ等代表者は個人主義社會に於ける所謂職業代議士と異なり、その共同體の人格代表として周知の人々の中より選ばれ依然その共同體に於て職分を保有しあくまでその人格代表としての自重をもつて行動するのである。

この職分共同體の人格代表の外に地域共同體の人格代表も同樣にして選出される。前者は國民共同體の諸價値の生産の面を國民共同體議會に表らはすに對し、後者はその價値を享受する生活の面を表らはす。かくて國民共同體の全面が國民共同體議會に表はされることゝなる。

農村共同體なるものは、地域共同體として大多數の國民にとつて生活共同體を成すと共にまた職分共同體として農業的生産共同體を成す。かくて國民の大多數はこの農村共同體の人格代表によつて代表されることゝなる。それが互に熟知せる者の中より選ばれ而も依然農村に於て生活の本據を有しその共同體を代表するものとしての自重をもつて行動するものであることは、他の共同體の人格代表に於けると同樣である。かくの如き人々を以て村の共同體議會を組織し更に村を包攝するより大なる生活共同體の共同體議會を組織しかくして郡、縣、國の共同體議會を順次に組織するのである。

要するに國民共同體議會なるものは國民共同體を成すところの各種の共同體の人格代表によつて構成され、こゝに於て萬機が公論せられる。即ち各自が國民共同體全體を思ふ誠意を盡して議したところのものは、御裁可を經て「天皇中心の國民共同體」の總意として確立する。

以上は云はゞ國民共同體の思惟の過程であつて、かく決定されたところのものが國民共同體の全體に於て實行に移される。これは云はゞ國民共同體の實行の過程である。この實行過程の中核をなすものは、各職分共同體全

體の最高代表者によつて　天皇の下に組織されるところの內閣である。これ等の人々は今日見られるが如く他の領域より來るものではなく今日の軍務大臣に於けるが如く各の職分共同體の最高代表でなければならない。かくてこの人はその職分共同體の最高なる代表者としてその下にはそれぞれの職分に關する最も優れたる人々を包擁せるが故に國民生活に於けるこの職分に關して最も適切なる立案をなし得るのみならず、更に國民共同體議會に於て決せられたる國民共同體的總意をその職分共同體の實行に移すに當つては、自らがその職分共同體全體の信望を負へるものとしてその職分共同體の中心に立ち全體を率ひて居るが故にこれを實行に徹底せしめ得るのである。即ちその職分共同體全體の重層的構造を通じて全體を指導し最も有效に實行に移し得るのである。故にかくの如き各職分共同體の最高代表者を以て組織せられたる內閣なるものは、今日のそれとは全く異なり、各職分共同體の中樞をそこに統一して居るものとして國民共同體の全領域に亘り最も深き理解と共に最も大なる實行力を有するところのものである。國民共同體に於ける諸職分共同體相互の共同體的關係の確立もかくの如き構成の內閣によりはじめて爲され得るのである。この內閣の中には職分共同體の最高代表者の外に更に全國民の生活共同體を代表するものとして厚生大臣とも呼ばるべきものも加はることが必要であらう。かくてこゝに國民生活の全面に對する實行の中核が成立する。國民共同體議會の決議にして各職分共同體に關するものはかくの如く當該職分共同體に於てその內部の職分共同體的組織を通じて實行に移されるのであるが、國民生活全體に關するものは地域共同體の重層的構成を通じて、即ち內閣より縣、市、郡、町、村、部落、隣組等を通じて實行に移される。

以上は國民總意の實行の機構について述べたのであるが、この實行の爲にはそれを職分とする行政官なるものも必要である。從つてこの行政官なるものは、國民生活に對し深き理解と識見を有するものでなければならない

のであつて、今日の如き法律萬能の高等文官試驗によつて適切に採用され得るものではない。またこの行政官なるものも、他の職分に於けるものと全く同じく國民共同體の一員として　天皇の御天職の實現を分擔し奉るものである。これを他の職分より特に優越せるが如くに考へるは、尙全體主義的意識に把らはれて居るものである。

かくの如くにして今や政治なるものは、國民共同體の全體より萬機を公論に決し、その決意を國民の全域に於ける實行に移す機構である。故に國民生活の全領域と一體をなしてゐるものであつてこれと對立するものではない。從つて今や國民生活の總ての領域は、それが經濟であれ教育であれ、個人主義社會に於けると全く異なり、政治と一體に於て考察さるべきものである。而かもこの政治たるや、權力階級を主體とするところのものとは全く異なり、「天皇中心の國民共同體」を主體として居るものとして、國民共同體に於ける總ての職分共同體の働を共同體的に完うせしめこのことによつて天下億兆一人もその所を得ざるものなからしめんとするところのものである。

五　經濟の新體制

人間の本來の經濟は血族共同體が主體となりその必要とするところのものが共同的に生產されこれがこの共同體に屬しこの共同體の爲めに用ひられたのである。この血族共同體が變形したところの氏族團體が對立せる古代末期に於ては、この各の氏族團體を主體とするところの莊園が發展した。かくて古代末期は氏族團體の對立を以て混亂に陷る。

この混亂に對して武士階級を主體として外的强制的な秩序を與へることによつて中世時の新體制が成立するのであるが、この中世に於ては全體を支配する權力を擔當するこの權力階級なるものが經濟についても主體性をな

し富はこの階級が農夫等をして生産せしめたるものであり、從つて權力階級に所屬しこの階級のために用ひられるものとして考へられた。これ全體主義の經濟觀である。然しこの中世の權力的秩序のもとに於て人々が自覺的となり來り次第に權力階級の支配に抗爭するに至るならば、こゝに個人なるものが新な主體性として高まつて來る。かくて經濟に於ても、富は個人が生産せるものであり、それ故個人に屬し個人の爲めに用ひらるべきものと考へらる。これ私有私用を原理とする個人主義經濟觀である。この個人主義經濟による生産力の著しき發展と共に個々人の經濟的不平等が增大し有産者階級と無産者階級との對立が激化し來るならば、各々の階級は自らを以て富の生産の眞の主體となし、從つてそれを自らに屬し自らの爲めに用ひらるべきものと考へる。これ資本主義的經濟觀と社會主義的經濟觀との對立である。

かく階級的經濟觀が對立するに至れば個人主義的社會秩序は國內的にも國際的にも動搖し混亂し來る。この內外の情勢に對して國家權力は强化されざるを得ない。經濟に於ても個人主義經濟に對して再び權力的支配が强化され來る。これが卽ち今日の統制經濟である。この統制經濟に於ては、一面國家の權力的支配の力によつて個人主義的自由主義經濟の下に於ては望み得なかつた生産力の進步、配給の公平、消費の規制が行はれるのである。これ等のものは、國民經濟のより高き發展の準備となるものである。而も他面この統制經濟の下に於ては、尙ほ個人主義の主體制と全體主義の主體制とが對立し、從つて個人主義經濟觀と全體主義經濟觀とが對立し、こゝに諸種の矛盾混亂が起るのである。近衞聲明に於て「取締るものと取締られるものとが對立的關係におかるゝがごとき傾向あるは正しく萬民翼贊の實を擧ぐべき組織なきところより生るゝ缺陷である」と云へるは、正にこれである。卽ちこゝに相對立せる主體は何れも在來の主體であり從つてかゝる狀態は何等新體制と云ふことは出來ない

ものである。萬民翼贊新體制たる爲めには新な主體によつて經濟の一切の分野が再組織されなければならない。この新な主體が卽ち「天皇中心の國民共同體」である。

この「天皇中心の國民共同體」を主體とするところの經濟が國民共同體經濟であり、このものが國民經濟の新體制である。こゝに先づ經濟觀の變化が起る。卽ちこれまでの全體主義的經濟觀も個人主義的經濟觀も眞なるものではない。卽ち富なるは階級又は個人によつて作られたものでなく、この國民共同體に於て今日まで發展し來れる自然、人口、生產手段を基本的生產力となし、これを祖先以來この共同體の成員であるところの者が、結び合はすことによつて生產されるのである。故に富の生產の眞の主體は國民共同體自體であり、從つてそれは國民共同體の爲めに用ひらるべきところのものである。國民共同體經濟は、かくの如き本質的構成を有するものでなければならない。

先づ國民需要なるものについて述べんに、國民共同體に於ては總ての人々が國民共同體の成員として自己の能力に應ずる職分を擔當しこれに自己の最善を致すのである。故にこの總ての人々には、その各々の職分を果す爲めに必要なものが當然に與へられなければならない。このものはその人の職場たる諸職分共同體に於ける物的設備として與へらるゝものゝ外、更にその職分をなすものに必要なる衣食住等としてその家庭に於て與へられるものもある。これ等の人々はまた家庭に於て次の時代に國民的職分を擔當すべきところの人々を養育するのであるが、これが爲めに必要なるものも當然に與へられなければならない。既に國民的職分を果して休息の時代にある人々にとつても同樣である。以上は職分並に生活の必要品であるが、これ等のものは、國民共同體の成員としてその本分に背かざる以上當然に與へらるべきところのものである。

國民共同體に於て總ての人々が各自の職分を遂行する結果は、その總ての成員にその生活並に職分遂行の爲めに必要なものを與ふるのみならず、更に進んで各自の生活の內容を充實し豐富にし以て人間としての生活を厚くするのである。このことは經濟についても同樣であつて國民共同體の全生產力は本來その成員に對し生活並に職分遂行に必要なもの以上に更に人間としての生活を厚くする爲めに役立つものをも出來るだけ十分に與へるべきところのものである。このものは生活並に職分の必要品に對し厚生品と云ふことが出來る。富に對する國民的總需要はこの必要品と厚生品とよりなる。この中どれだけが生產さるべきかは、經濟共同體議會に於て國民總生產力との關係により審議され更に國民共同體議會に於て決定される。かく決定されたところの國民的總需要は、經濟共同體議會により各產業に最も有效に配當せられ生產に移される。

この國民的生產に於ては生產の諸要素が全國的一體的に把握せられその最大の生產力が發揮せしめられなければならない。先づ所謂勞働なるものについて述べんに、今や國民共同體に於ては經濟的活動も國民的職分としてなされるのである。而して國民各自の職分は國民全體に於ける總ての人々の能力を最大に生かす樣にその人々の能力に從つて定まるのである。このことが適切になされんが爲めには國民全體の敎育の實質的機會均等が前提されることを要する。このことについては別に詳にさるべきであるが、これを一言にして云へば、國民共同體に生れ出でたる總ての人々は貧富等の別なく、國家の公平適切なる試驗により、その能力次第に高き學校に進み得るのであつて、これに要する費用は一切國家が負擔するのである。これが國民共同體に於ける敎育の實質的機會均等の制度である。これを現代よりの過渡期について云へば、この費用なきものに對して國家がその衣食に至るまで當然の義務としてこれを負擔するのである。この制度の下に於てはじめて、大學を卒業したと云ふことは國民

に於ける最高の能力を有するものとなるのである。故にこの人が國民共同體に於ける各領域の指導的地位に進むのである。かくて國民共同體に於ては孰れの職分共同體に進み入るかと云ふこともその職分共同體に於て如何なる地位に進むかと云ふことも結局教育の實質的機會均等の結果定まるのである。かくて筋肉勞働に從事するものに至るまでその職分は全國民的關係より公平に而して全國民的活動をして最大の效果を發揮せしむべく定められたのである。故にそれは、今日の職業の決定事情とは全く異なる性質を有する。かく國民的全體より定められたるその職分に對しては、心から最善を盡し得るのであつて、何人に對しても不平を云ふところはないのである。而してその人の子供はまた新に教育の實質的機會均等によりその能力に應ずる地位に進み得るが故にこの國民共同體に於てはも早や階級的差別なるものは存在し得ない。かくして總ての人々は自己の死後の家族の生活に對する不安もなくその職分に心から最善を盡し得かくして最大の國民的活動が發揮されることゝなる。

國民的自然についてもこれを國民的一體として最善に生かさなければならない。卽ち國民的需要を最も有效に充足し得る國土計畫を確立しこれに從つて國土を最大に活用するのであるが、これを經濟的生產のみについて云へば、適地適產主義によつて土地の公用を決定し各の土地の經營者にはこれに從つて生產に當らしめ以て國民的需要を最大に充足せしむる樣にその生產力を發揮せしむるのである。この際これまで個人が國民的自然の一部を私有してゐるところの地主なるものについては、土地の私有はこれをそのまゝとなし、その土地の使用についてはこれまでの如く地主がこれを勝手に私用し地代をとることを許さず國民共同體の立場より決定されたる公用に從はしむる。而して地主に對しては國民共同體會議が適當なりと考ふる使用料を與へるのである。

次に國民的生產資本についても最大の國民的效果が擧げられなければならない。これが爲めには大規模な生產

設備は、國民共同體の立場よりこれを國民的統一的に用ひるのである。その私有されて居るものについては、私有の土地に對すると同樣に、私有公用の原理を適用し、その私有者については國民共同體會議が適當なりと考へる使用料を與へる。[1]

最後に生産の組織については諸企業を國民的總需要に對し最も有效に組織する、從つて大規模なるものはこれまで私有私營されて居たものと雖もこれを國營に移しこれまで國有國營であつたものと共に國民的一體に編成し國民的大産業組織として大規模生産の利益を徹底的に發揮せしめ、これを國民的に最も有效に運用しなければならない。その編成並に運用の決定は經濟共同體會議がこれに當る。これ等企業の經營者についても經濟共同體會議が適當なりとする者を任命する。この經營者に對してはその企業より擧ぐべき一定の責任額を規定しそれ以上の業績を擧げたるものに對しては賞與を與へ、その成績の特に劣れるものはこれを他の地位に移すことゝなし以て經營者に鼓舞奬勵を與へる。比較的小規模なる産業については、産業別並に各産業中の業種別に組合を組織せしめこれを國民共同體に最も有效適切に經濟共同體が統制する。農業については農村共同體をしてその範圍にある耕地の公用主體たらしめ、以てこれに經濟的基礎を與へ、この土地を農業生産に適當に用ゐしむる。

國民共同體を主體とする配給の組織は、國民共同體に於ける諸消費主體と諸生産主體との間に、また諸生産主體相互の間に、財を配給する組織である。消費の主體は家庭其他の地域共同體と各種の職分共同體である。家庭其他の地域共同體の需要は隣組、部落會又は町内會、市町村常會等を通じて國民的需要に纏められるが如く、またこの組織を通じて家庭其他の地域共同體に配給される。また職分共同體についてはそれに於て重層的に組織されて居る諸の共同體の需要が小なるものより大なるものへ總括されてその職分共同體全體の需要を構成するが如

1) 以上の私有公用の原理については、拙稿「革新原理としての民有國營に就て」本誌昭和十一年八月參照

く、この組織を通じて大なる共同體より小なる共同體へと配給されるのである。かくて生活並に職分必要品については、これ等共同體の重層的組織を通じて配給されるのである。この際各自が受けるところの配給量は、職業的必要品については職業の異なるによつて異ならざるを得ない。例へば身體を働かすこと大なる職分にあるものは、精神を働かすこと大なる職分にあるものよりも多量の食料、堅牢なる衣服を要するであらう。これに對し後者は小量なれども比較的消化し易き食料と比較的靜な住居を要するであらう。生活的並に職業的必要品はこれが不足するならば國民の健康を害しまた職分の能率が十分に上らずその結果國家全體に損失を與ふることゝなるものである。故にこれ等必要品は國民共同體の正しき成員として當然に與へられなければならない。以上は必要品についてゞあるが、それ以上の厚生品については、人々の個性的な撰擇が許されることが望ましい。故にその配給機關もまたこれに適當するものたることを要する。今日の百貨店等に於けるが如く多種な品物が同時に陳列されて居てその中より撰擇することが出來ることが望ましい。地方にあつては消費組合の事務所に或る規模に於てかゝる設備がなされ得るであらう。この厚生品に對する各人の獲得力は必要品以上に各人に與へられるところの所得である。例へば職分の性質には種々なる別が存し、學者、藝術家等の職分に於けるが如く、その職分を行ふことが同時にその人の厚生に役立つものもあるが、これと反對に不潔物を取扱ふ職分に於けるが如くその職分が厚生に對し少なからざる犧牲を伴ふものもある。かく人生的犧牲を伴ふものにとつては、その働く時間を前者に於けるよりも短縮し更に厚生の爲めにその人が用ゐ得べきところの所得を大ならしめなければならない。但し人々が諸種の職分の孰れを選ぶかは、その受けたる教育の種類並にその教育の度合について異なるのであるが、同じ程度の能力を有する者に對する職業の配當については、人々が比較的好まざる職分に對しては比較的好む職業に

對するよりも働く時間も短かくし所得も大ならしめ以て各職分に對して國民共同體が必要とするだけの人數が自ら配當され各自がその職分に於て自發的に働く樣に工夫されることが必要である。

諸の生産主體間に於ける必要なる財の配給については、國民的生産に最も適合する樣に國民的一體的に經濟共同體會議の決定によつて配給がなされなければならないのである。

これまでは國內經濟に於てのみならず對外經濟に於ても個人が主體となつた。今や國民共同體經濟に於ては、對外的にも國民共同體が主體とならなければならない。卽ち何を何處に輸出し何を何處から輸入さるべきかは、國民共同體議會に於て決定される國民的總需要を充足すべく經濟共同體議會に於て決定されるのである。

かくて「天皇中心の國民共同體」を主體として國民經濟の生産配給消費の一切が再組織されることにより、經濟共同體が最大の力を發揮し得ることゝなる。

以上は政治經濟について述べたのであるが、同樣にして他の領域の新體制も明にされる。それは卽ち「天皇中心の國民共同體」を主體として國民生活の總ての領域を再組織することである。かくしてこゝに「萬民翼贊の國民組織」の構造が明にされるのである。これを實現する爲めの「國民翼贊運動」は「天皇中心の國民共同體」の根本構造に立脚するところの「國民共同體運動」でなければならない、故にこの運動に於て最も大切なことは、先づこの新體制の意義を全國民に十分に自覺せしめかくて「全國民がその日常生活の職場、職場に於て翼贊の實を擧げ」以て各自の職分共同體を確立し、更に日常の共同生活を催進し以て地域共同體を確立することである。かくて「萬民翼贊の國民組織」がより具體的に實現する程、日本の國民共同體は大なる力を發揮し得るに至り現代世界變革期に於ける指導國民として東亞共同體並に世界共同體建設のその使命を最大に遂行し得るに至るのである。